咲かせよう、３つの花
- やさしさの花
- まなびの花
- がんばりの花

つながる　つなげる　いいえがお

北九州市立筒井小学校
文責　校長　古賀弘子

平成３０年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成３０年４月１７日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部分を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後の効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習の手引きなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけたら幸いです。

１．教科に関する調査結果の概要（A：主として「知識」に関する問題　B：主として「活用」に関する問題）

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	●　全体的によくできており、無解答率が低い。特に、話すこと・聞くことや書くことについての問題の正答率が高かった。
国語B	●　全体的によくできており、無解答も少なく、粘り強く問題に取り組んでいた。書くことの領域の記述式は正答率が低かった。
算数A	●　「数と計算」「図形」「数量関係」の３つの領域で、全国平均正答率を下回っており、課題である。
算数B	●　全体的には、よくできていたが、図形領域の問題の正答率が低かった。
理　科	●　全体的には、全国平均正答率とほぼ同程度であった。主として「知識」に関する問題の正答率が高かった。

２．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

- 自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したり、話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることに課題をもっている児童が多い。
- 「宿題をしている」と回答した児童の割合は高いが、「自分で計画をたてて勉強している」と回答した児童の割合は全国平均と比べると低い。
- 「毎日決まった時刻に寝る・起きる」「朝ご飯を食べる」と回答した児童の割合は高く、基本的な生活習慣がきちんと身に付いていると考えられる。
- 家庭での学習時間が１時間以上と回答した児童は約３割と低く、放課後テレビやビデオ、携帯、インターネット等に費やす児童が９割近くいる。家庭での過ごし方について家庭との連携や啓発をさらに進めていく必要がある。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目に肯定的回答をした児童の割合が全国平均より高い。

３．調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○　基礎的・基本的な知識･技能の確実な定着

- 朝の活動「チャレンジタイム」では、曜日ごとに内容を決めて全校一斉に同じ取組を継続して行う。（月曜日：算数、火曜日：読書、水曜日：計算、木曜日：造形タイム、金曜日：音読・視写）
- ３年生以上は、学力定着サポートシステムを活用し、児童のつまずきを分析し指導に生かす。
- お互いの意見を出し合うことで自分の考えを深められるよう、学習の中に「話合い活動」を位置付ける。
- 授業の終末で児童が学んだことを振り返ることができるよう、教師が「振り返り」の時間を確保する。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○　家庭学習の充実

・家庭学習は概ね定着しているので、今後は自主学習により一層取り組むよう、よい取組のノートの掲示等を行い、自主学習への意欲を高める。

○　メディアとの接触時間の再考

・１日の生活の中でのテレビやビデオ、携帯やスマホに費やす時間について見直すよう、学校だよりや学級通信、懇談会等で保護者の協力を呼びかける。

・携帯・スマホの使い方については、いじめ防止と関連させ、児童と保護者が共に学ぶ「ネットによるいじめ防止」講演会を開いたり、学校だよりで知らせたりして保護者へも啓発を行っていく。